

ケアの可能性が希望になりました

医療福祉学分野 修士2年 宮原 学

日ごろ認知症ケアに携わる者として、上野先生のご講義は、とても勇気づけられました。しかし、同時に私のこれまでの経験とそれを踏まえてケアの現状を考えると、心苦しさも覚えました。それを、私も正直にお伝えさせていただきたいと思います。

私が知っている認知症ケアの現場（施設系）では、精神科への受診を躊躇うスタッフが1/5。外来受診また入院加療を望んでいるが声に出せない（無関心または考えないを含）スタッフが3/5。外来受診を積極的に考えるスタッフが1/5ほどの割合だと思います。

このこと自体も残念なのですが、それよりも、外来受診後（または退院後）、ご本人の活動性が低下していても、ご本人が大人しくなって以前より活気がなくなっても「精神科の先生の指示だから」と言って、薬を減らす相談や変更を言わない、考えない等、さらには、ケアの在り方を工夫しなくなる職員が約4/5となり、ケアマネジメントをしなくなるのが現状ではないでしょうか。

まさに、上野先生がお話しされたとおり、医療機関、医師に丸投げです。

恥ずかしいです。

私たちは、この様にすぐに言い訳をし、また、すぐ誰かのせいする体質があります。ケアの可能性を広げるためには、この体質を変え、今まで以上にご入居者の身体疾患（症状）の変化、ご家族が面会に来られた後やご入居者同士の関係性、テレビやラジオから聞こえてくる情報・テレビドラマの影響などによる心の変化、食事・飲水量の変化、排便（便秘）の状況、そして一日のお過ごし方をもっと観察し、さらに、今まで過ごしてきた普通の生活、例えば、お金を使って何かを買う事、一人で気楽に出かけること、友達と電話で話す事、好きなタイミングで入浴すること等々挙げたらきりが無いですが、これらを制限していることを自覚し、薬物療法を理解し、薬の副作用（効果）や服用後の変化を話し合い、ちょっとした変化でも「本人中心の支援」が前提であるので、ケアの視点を医師に伝えていかなければいけないと思いました。

また、私たちも、半年か一年に一度ご面会に来られるご家族に感謝されることが多く、自分たちの介護が評価されているものと勘違いすることがありますが、私たちは、常に今しているケアがご本人中心のケアなのかを考え、ご本人が楽しい、安心だと思っていただけるようケアを工夫していかなければいけないのです。

しかし、このような残念なことがある現場でも、せめても救いは、「周辺症状、行動・心理症状」のことを「問題行動」とは言わなくなったこと。また、ケアの在り方で、「このケアは、もしかしたら虐待？」と悩む時は、そのケアは「既に不適切なケア」として行わないようにしていることです。

最後に、上野先生のように、私たちに期待して、私たちと同じ速度で歩いてくださる、そして同じ立ち位置で話してくださる精神科医師がもっと増えることを信じ、そして、ご入居者の人生最終章が豊かであるよう、先ずは、ケアをさせていただく私たちが変わることだが優先だとわかりました。今回は、これから私がすべきことを指し示していただきました。誠にありがとうございます。

支援の中心は生活の支援。医療は、あくまでもバックアップの役割。

宮原学様、レポート、どうもありがとうございます。
介護現場での現実を教えていただき、感謝します。

>また、私たちも、半年か一年に一度ご面会に来られるご家族に感謝されることが多く、
>自分たちの介護が評価されているものと勘違いすることがありますが、
介護現場でも同じなのですね。
精神科病棟医療でも、こうした「ご家族からの感謝」で必要な修正がかからなくなってしまう現実があります。

世の中には支援を必要としている人がたくさんいます。
医療を必要としている人もいるので、支援の中身から医療をすべて外してしまうことはできませんが、支援の中心は生活の支援です。医療は、あくまでもバックアップの役割ではないかと思います。

当事者や現場で生活の支援をしている人が医療の内容、特に薬物療法の内容を理解して、支援を組み立てていただくのが最もいいのではないのでしょうか。当事者、支援者がその必要に応じて医療をうまく利用する形ですね。そのためには、医療的知識、とくに現実の医療の中心である「薬物療法に関する知識」が重要であると思います。

現在、開発しているのは、当事者・支援者が学ぶことができるプログラムです。
これから私のホームページで発信していこうと思います。(ここ一年ほど更新していなかったのですが、今決めました！)
ご意見等、よろしく願いいたします。

上野 秀樹

内閣府 障害者政策委員会委員／敦賀温泉病院／海上寮療養所

千葉大学医学部附属病院 地域医療連携部 特任准教授

ホームページ <http://hidekiueno.net/>

認知症アシストフォーラム <https://ninchisho-assist.jp/>

————*★★*————*★★*

おはようございます。

ご返信を頂き、誠に恐縮です。ありがとうございます。

「当事者・支援者が学ぶことができるプログラム」、先生のホームページ
フォローさせていただきます。

何かお手伝いできることがございましたら、

お声かけ頂ければ頑張ります。

今後とも、よろしく願い申し上げます。

宮原 学